

漢法苞徳塾資料	No. 198
区分	レジメ
タイトル	転回が始まった経絡治療
著者	八木素萌
作成日	1989.08.26 (第6回夏期研修合宿)

◎来年は経絡治療50年祭が開かれる。成立期の状態。治療体系が提示された意味。

◎代表的な解説書

『誰にもわかる経絡治療講話』本間祥白

『鍼灸経絡治療』岡部素道

『鍼灸治療の真髄—経絡治療五十年』岡部素道

『経絡治療 鍼灸臨床入門』小野文恵

『鍼灸臨床医典—初心者のための取穴法解説』間中喜雄

『鍼灸医術の門』柳谷素霊

◎東洋医学を知る為の案内書

『漢方医術復興の理論』竹山晋一郎

『昭和鍼灸の歳月—経絡治療への道』上地栄

『鍼灸医学と古典の研究』丸山昌朗

『鍼灸医学源流考 素問医学の世界 I / II』藤木俊郎

『気—論語からニューサイエンスまで』丸山敏秋

『黄帝内経と中国古代医学—その形成と思想的背景および特質』丸山敏秋

◎経絡治療には幾つものグループが生じた。日本経絡学会に登録されている研究グループは9団体になっている。

◎難経の脈診に関する誤解と六部定位脈の問題点。

風邪の初期症状から臓腑と経絡との関係を考えてと～～。

全てを経絡の変動として触診できるだろうか？

◎5回学会での丸山衛氏の報告や、馬場白光氏の経穴力測定、の持っている客観的な意味

◎日本経絡学会16回大会のテーマ『「証」について』の論議から

- a. 「脈は身体を内側から診ること」という主張に対して行なわれた批判
- b. 経絡変動を脈診で診定するとの議論に関連するもの
- c. 岡部素道氏の絶筆『鍼灸治療の真髓』の中の、見落としには出来ない論点
- d. オーリングテスト、メトロノーム、「試し刺し」などの登場
- e. 腹診の他に舌診や背候診、五臓弁証を中心に治療を組み立てている傾向
- f. 中医学の評価問題
- g. 六部定位脈診と脈状診
- h. その他

◎当塾の立場について～～経絡治療の転回の問題との関連で

以上 塾長講話レジメ